

## 故中林賢次郎教授著作目録

雑誌名	社会労働研究
巻	33
号	1
ページ	14-41
発行年	1987-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00018383">http://hdl.handle.net/10114/00018383</a>

# 故中林賢二郎教授著作目録

## Ⅰ、主要単行書（含む共著）

- 『現代マルクス主義——現代革命の諸問題』Ⅲ、「社会民主主義と共産主義」、大月書店、一九五八年七月
- 『戦争と労働者階級』、春秋社、一九五九年
- 『学習テキスト・統一と団結』（塩田庄兵衛監修）、学習の友社、一九六一年二月
- 『学習講座・社会科学の基礎』第二卷、「世界労働運動史」、青木書店、一九六三年十一月
- 『講座現代——社会主義世界の形成』三、「社会主義世界と日本」、岩波書店、一九六三年九月
- 『講座現代——現代の民衆』一一、「独占資本主義国における労働者階級の運動」、岩波書店、一九六四年一月
- 『世界労働運動の歴史 上』、労働旬報社、一九六五年七月
- 『世界労働運動の歴史 下』、労働旬報社、一九六五年九月
- 『現代日本とマルクス主義』Ⅱ、「統一戦線論」、青木書店、一九六六年三月
- 『ドゴール体制下の労働運動と五月ゼネスト』、「ドゴール体制とフランス労働者の五月ゼネスト」、労働旬報社、一九六九年三月

- 『労働組合運動の理論——労働組合の役割』第一巻、「資本主義のもとでの労働組合運動についてのマルクス・エンゲルス、レーニンの理論」、大月書店、一九六九年九月
- 『労働運動と統一戦線』、労働旬報社、一九六九年一二月
- 大原社会問題研究所編『金属産業労働組合の組織活動』（原薫との共著）、労働旬報社、一九七〇年二月
- 『岩波講座・世界歴史』第二五巻、「コミンテルンの成立」、岩波書店、一九七〇年八月
- 『労働組合運動の理論——労働組合の戦術』第六巻、「ストライキ闘争とマルクス・レーニン主義」、大月書店、一九七〇年五月
- 『戦後労働組合の歴史』（塩田庄兵衛、田沼肇との共著）、新日本出版社、一九七〇年六月
- 塩田庄兵衛編『労働問題講義』、「労働問題の成立と展開」、青林書院新社、一九七一年九月
- 『労働組合入門』、労働旬報社、一九七四年四月
- 『統一戦線史序説 一九一四—一九二三 インタナショナルにおける統一と分裂の論理』、大月書店、一九七六年五月
- 『現代労働組合組織論』、労働旬報社、一九七九年六月
- 『イギリス通信——経済危機と労働運動』、学習の友社、一九八一年九月
- 『現代の労働組合運動論講座』、「ヨーロッパの労働組合運動」、学習の友社、一九八二年八月
- 『日本の労働組合運動』第五巻、「企業別組合と現代労働組合運動の組織論的課題」、大月書店、一九八五年六月

Ⅱ、論文、その他

\*一九四〇年代

北方のヒューマニスト——トーマス・モアをめぐりて—— 「饗宴」日本書院、一九四七年九月号

社会民主主義と社会化の諸問題——イギリスの産業国有化をめぐって 「思想問題研究」第二卷、第一一・一二号、

一九四七年一二月

世界復興一ヶ年の回顧・英国 「季刊大学」第五号、一九四八年三月

英国産業再建の方式 政治経済研究所、一九四八年一月

\*一九五〇年代

現代史 歴史学研究会編「歴史学の成果と課題」(一九四九年歴史学年報) 岩波書店、一九五〇年八月

中近東におけるアメリカ資本 「世界経済」一九五〇年一月号

再軍備の重圧に苦悩するイギリス経済 「日本経済情報」日本経済出版社、一九五一年一月号

〈翻訳〉デュ・ポン 「政経国際資料」第一集、政治経済研究所、一九五一年六月

イランとエジプトにおける民族解放闘争 岡倉古志郎・鈴木正四編『民族解放統一戦線——アジアの現状分析——』

三一書房、一九五三年一月

一九四五と一九九年における上海労働者の闘争 「歴史評論」一九五七年一〇月号

第四回世界労働組合大会について 「労働運動史研究」第九号、一九五八年

〈翻訳〉ヴェラ・シュラークマン「企業と給料取り」、事務労働者の地位とイデオロギー」『現代の中間階級』大月書店、一九五八年二月

技術革新がもたらす新潮流 「エコノミスト」毎日新聞社、一九五八年六月七日号

〈翻訳〉ジエームズ・クルーグマン「国有化と国家」井汲卓一編『国家独占資本主義』大月書店、一九五八年七月  
同労働事情・「情勢の評価」によせて——アメリカ、イギリス労働者の闘い 「労働法律旬報」第三一八号、一九五八年八月

J・ブリュア、M・ピオロ著、小出俊訳『フランス労働運動史——労働総同盟（CGT）小史——』への「解説」合同出版社、一九五八年九月

国際労働情勢・タ・ハ法以来の反組合法ケネディ・アイヴス法案の悲喜劇 「労働法律旬報」第三二二号、一九五八年九月

国際労働事情・インドネシア労組のオランダ人企業国有化のたたかい 「労働法律旬報」第三二四号、一九五八年一〇月

警職法「改正」反対運動と労働者階級 「思想」岩波書店、第四一六号、一九五九年二月号  
調査報告・日本の政治的底流——国民運動と地方選挙—— 「中央公論」一九五九年六月号

イタリアの労働プラン——大衆斗争を土台とした構造改造的改良の斗い 「労働と経済」一九五九年七月  
〈翻訳〉J・キャンベル『新資本主義の幻想——労働運動からの諸問題』、合同出版社、一九五九年一〇月

日常的利害と長期的利害 「思想」第四二六号、一九五九年一二月号

\*一九六〇年

安保条約改定反対闘争と国会 「思想」第四二七号、一九六〇年一月号

ソ連の七カ年計画と世界の明日 「月刊炭労」日本炭鉱労働組合、一九六〇年二月号

特別調査・総評と全労（北川隆吉、笹木弘、増島宏、佐藤竺、松下圭一との共同執筆） 「中央公論」一九六〇年四月号

社会主義化の現実的課題——統一戦線の歴史的考察 「横浜国立大学新聞」一九六〇年五月一五日号

シンポジウム・三池争議のそのなかから 「エコノミスト」一九六〇年五月一七日号

労働運動の質的転換 「労働法律旬報」第三八四号、一九六〇年六月

総評と全労（北川隆吉、笹木弘、増島宏、佐藤竺、松下圭一との共同執筆） 臼井吉見編集・解説『現代教養全集』

筑摩書房、一九六〇年七月

組合分裂の傾向をめぐって——運動史的側面よりの考察(1) 「月刊労働問題」第二六号、一九六〇年七月

現地ルポ・安保闘争の高まりと日教組大会 「教育評論」日本教職員組合、一九六〇年七月号

世界と日本はどううごく（朝野勉、堀江正規、吉谷泉、佐藤重雄との共同執筆） 「教育評論」一九六〇年八月号

組合分裂の傾向をめぐって——運動史的側面よりの考察(二・完) 「月刊労働問題」第三〇号、一九六〇年一月

\*一九六一年

春闘にのぞむにあたってアメリカ鉄鋼ストのおしえるもの 「労働法律旬報」第四〇四号、一九六一年一月

戦後労働運動史(8) 国際労働運動 「学習の友」一九六一年二月号

〈翻訳〉ジェームズ・クラグマン、「イギリス共産党の創立」 「労働運動史研究」第二六号、一九六一年三月

戦後労働運動史(9) 国際労働運動 「学習の友」一九六一年三月号

産業別統一と政治的統一闘争——総評新方針案を中心に 「月刊労働問題」第三九号、一九六一年八月

戦後労働運動史(14) 勤評闘争から警職法闘争へ 「学習の友」一九六一年九月号

\*一九六二年

書評・荒畑寒村訳『コミンテルン・ドキュメント』I 「労働運動史研究」第三〇号、一九六二年三月

〈翻訳〉J・M・バディッシュヨ「アメリカ労働者階級構成の変化」 「月刊労働問題」第四九号、一九六二年六月

\*一九六三年

国際路線は第三勢力論——総評はどこへ行く 「エコノミスト」一九六三年七月二三日号

それが知りたい・「労働憲章」とは 「学習の友」一九六三年一二月号

\*一九六五年

はたらくものの生活と政治 「学習の友」一九六五年三月号

日本の巨大組織④ 総評 「朝日ジャーナル」第七卷第一四号、一九六五年四月四日号

イギリスの初期労働運動にかんする新しい解釈について 「資料室報」第一〇九号、一九六五年五月

アレン・ハット著「イギリス労働組合運動小史」第五版について 「労働運動史研究」第三八号、一九六五年五月

共同研究・戦後労働組合運動史、戦後労働運動の出発点(上) 「労働運動史研究」第三八号、一九六五年五月

共同研究・戦後労働組合運動史、戦後労働運動の出発点(下) 「労働運動史研究」第三九号、一九六五年七月

国際労働運動でアメリカ労働組合幹部が果たしてきた役割 「労働運動史研究」第四一号、一九六五年一月

E・J・ホブズボウム「一八五〇年以後のイギリス労働運動の諸潮流」について 「資料室報」第一一五号、一九六五年一月

五年一二月

『世界労働運動の歴史』から学ぶ、著者・中林賢二郎氏をかこんで 「青年運動」日本民主青年同盟、一九六五年一月

二月号

問題提起・労働戦線統一について 「トラック運輸労働」全国自動車運輸労働組合、一九六五年一二月六日特別号

\* 一九六六年

戦争と労働者階級 「労働法律旬報」第五八五号、一九六六年一月

岡谷・諏訪工業地帯における労働力の需給と移動の実態(一) (舟橋尚道との共同執筆) 「資料室報」第一一七号、

一九六六年二月



岡谷・諏訪工業地帯における労働力の需給と移動の実態(二) 「資料室報」第一一八号、一九六六年四月  
日本のベトナム侵略加担と労働者人民のたたかい(山田昭との共同執筆) 『新段階のベトナム戦争』労働旬報社、  
一九六六年三月

歴史をくりかえさせてはならない 「労働運動史研究」第四三号、一九六六年四月

総評 朝日ジャーナル編 『日本の巨大組織』、勁草書房、一九六六年五月

誌上学習会・戦争と労働組合(市川敏、井上忠雄、吉村英との座談) 「学習の友」一九六六年八月号

〈翻訳〉マルクス・エンゲルス『タイムズ』編集者へ

マルクス『タイムズ』その他の諸新聞編集部にたいする総評議会の声明

マルクス『ウエルカー』編集部へ

マルクス『タイムズ』編集者へ

マルクス『ベル・メル・ガゼット』編集者への手紙

マルクス『タイムズ』編集部にたいする総評議会の声明

マルクス『スタンダード』編集部への総評議会の手紙

エンゲルス『スペクテーター』および『エグザミナー』編集部への総評議会の手紙

マルクス『デイリー・ニュース』編集者へ

マルクス『ベル・メル・ガゼット』編集者フレデリック・グリーンウッドへの手紙

マルクス『モーニング・アドヴァタイザー』編集者へ

年譜・著作目録

- マルクス『スタンダード』編集者へ  
マルクス『タイムズ』編集部への添え状  
エンゲルス『タイムズ』編集者へ  
マルクス『アンテルナショナル』編集者へ  
マルクス『パブリック・オピニオン』編集者へ  
マルクス『パブリック・オピニオン』編集者へ  
マルクス『ゴロア』編集者へ  
マルクス『サン』編集者チャールズ・デーナへの手紙  
マルクス『ヴェリテ』編集者へ  
マルクス『イーヴニング・スタンダード』編集者へ  
エンゲルスコクリンの手紙についての総評議会の声明  
マルクス『イースタン・ポスト』編集者へ  
マルクス『イースタン・ポスト』編集者へ  
マルクス『イースタン・ポスト』編集者へ  
インタナショナルとパリ・コミューンにたいしてブルジョア新聞が流布した中傷に反論するマルクスの演説の  
報道

『マルクス・エンゲルス全集』第一七巻、大月書店、一九六六年八月

労働組合運動の歴史的役割について 「労働運動史研究」第四五号、一九六六年一〇月  
コテンテルン第一三回プレナムについて 「資料室報」第一二五号、一九六六年一二月  
企業を通じてみた労働力の需給と移動の実態 大原社会問題研究所編『中小企業の賃金と労働市場』労働旬報社、一  
九六六年一二月

\* 一九六七年

戦後における世界労働運動の歴史と現況(上) 「月刊アジア・アフリカ研究」アジア・アフリカ研究所、第七〇号、  
一九六七年二月

戦後における世界労働運動の歴史と現況(下) 「月刊アジア・アフリカ研究」第七一号、一九六七年三月

戦後労働組合の国際連帯史の五つの時期 「労働運動史研究」第四七号、一九六七年四月

国際労働運動と産業再編成 「エコノミスト」一九六七年四月二〇日号

労働運動のあゆみ① 「機関紙通信」機関紙連合通信社、第二三二八号、一九六七年五月一三日

労働運動のあゆみ② 「機関紙通信」第二三二九号、一九六七年五月一六日

労働運動のあゆみ③ 「機関紙通信」第二三三一号、一九六七年五月二〇日

労働運動のあゆみ④ 「機関紙通信」第二三三四号、一九六七年五月二七日

労働運動のあゆみ⑤ 「機関紙通信」第二三三五号、一九六七年五月三〇日

労働運動のあゆみ⑥ 「機関紙通信」第二三三六号、一九六七年六月一日

カール・ヨネダ著『在米日本人労働者の歴史』への「序文」（塩田庄兵衛との共同執筆）新日本出版社、一九六七年六月

ウィリアム・ベンボウとその「グラランド・ナショナル・ホリデー」について 「資料室報」第一三四号、一九六七年

一〇月

〈討論〉労戦統一の国際的経験と教訓（宮田光雄、小森良夫と） 「労働農民運動」第二一号、一九六七年一二月号

\* 一九六八年

戦後における政党と労働組合 「季刊労働法」第六七号、総合労働研究所、一九六八年三月

労働組合と政党——その関係を原則的なものにするために 「労働農民運動」第二四号、一九六八年三月号

戦後労働組合運動の国際的連帯関係 「社会政策学会年報」第一五集、一九六八年四月

統一戦線史論——そのいくつかの問題点 「労働運動史研究」第四八号、一九六八年四月

労働組合の組織にかんする調査報告（一） 全国金属労組の組織の発展とその組織活動の現段階 「資料室報」第一四

〇号、一九六八年五月

労働組合の組織にかんする調査報告（二） 全国金属労組の支部組織の実態（原薫との共同執筆） 「資料室報」第一

四一号、一九六八年六月

\* 一九六九年

コミンテルン・イギリス支部を形成した諸潮流 「資料室報」第一四九号、一九六九年三月  
労働者階級の伝統とメーデー・スローガン 「機関紙通信」第二六二〇号、一九六九年四月二二日  
社会運動の半世紀展（大原社会問題研究所主催の展示会パンフ、大島清、二村一夫との共同執筆）朝日新聞社、一九六九年五月

みんなの学習ろくおん室⑤ メーデーとはなんでしよう？ 「学習の友」一九六九年五月号

サンフランシスコ体制下の労働組合運動と統一行動の発展 「労働運動史研究」第五〇号、一九六九年六月号

きずかれた国際連帯のきずな 戦後労働組合運動の歴史⑩ 「労働農民運動」第四三号、一九六九年一〇月号

新安保体制のもとで 戦後労働組合運動の歴史⑫ 「労働農民運動」第四五号、一九六九年一二月号

資本主義のもとでの労働組合運動についてのマルクス・エンゲルス・レーニンの理論（要旨、解説）『労働組合運動

の理論』の宣伝パンフ、大月書店、一九六九年

ストライキ戦術とマルクス・レーニン主義（要旨、解説）『労働組合運動の理論』の宣伝パンフ、大月書店、一九六九年

### \*一九七〇年

コミンテルンの成立——初期コミンテルン史をめぐって 「労働運動史研究」第五一号、一九七〇年一月

イギリス共産党の成立 「労働運動史研究」第五一号、一九七〇年一月

「七〇年」をむかえる労働者階級と人民の闘いのあらたな前進 戦後労働組合運動の歴史⑬ 「労働農民運動」第四

六号、一九七〇年一月号

読書・上杉重二郎著『ドイツ革命運動史』(上)(下) 「エコノミスト」一九七〇年一月二七日号

討論・運動史からなにを学ぶか 戦後労働組合運動の歴史<sup>⑭</sup> 「労働農民運動」第四七号、一九七〇年二月号

社会科学の学習によせて——社会科学と空想—— 「七〇生協のしおり」生活協同組合連合会、大学生協、一九七〇

年二月

統一の力 「学習の友」一九七〇年三月号

七〇年代の労働問題 「新劇人」安保体制打破新劇人会議、第三号、一九七〇年五月

座談会・産別会議の再検討——『産別会議小史』をめぐる—— 「労働運動史研究」第五三号、一九七〇年一二月

\*一九七一年

労使関係法反対闘争をつうじて前進するイギリス労働組合運動 『現代の労働組合運動』第一集、大月書店、一九七

一年一月

アムステルダム国際社会史研究所にて 「資料室報」第一七〇号、一九七一年三月

エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』国民文庫(1)への「解説」 大月書店、一九七一年四月

世界の若者たち・静かなデモのいわれ 「学習の友」一九七一年九月号

労働戦線再編運動の性格と経緯 「労働法律旬報」第七八九号、一九七一年九月

ざいそう・国際社会史研究所のことなど 「経済」第九〇号、一九七一年一〇月号

国際労働運動における労働貴族 「労働農民運動」第六七号、一九七一年一〇月号

コミンテルンのアムステルダム・サブビューローと一九二〇年二月の国際協議会について 「資料室報」第一七八号、一九七一年一二月

\*一九七二年

団結は労働者のいのち——権利闘争の歴史から 「労働農民運動」第七一号、一九七二年二月号

勝利したイギリス炭鉱労組の七週間ストライキ 「労働農民運動」第七三号、一九七二年四月号

ヨーロッパの労働組合の組織形態の特徴◇イギリス 「労働農民運動」第七四号、一九七二年五月号

対談・日本の労働組合組織の問題点をえぐる——企業別組織の歴史的形態と弱点の克服 「労働農民運動」第七四号、一九七二年五月号

「総がかり春闘方式」の発展によせて——イギリス炭鉱ストに関連して 「賃金と社会保障」第六〇四号、一九七二年六月

右翼的潮流の支配の動揺と破綻——大英帝国の没落とイギリス・プロレタリアート—— 『現代の労働組合運動』第

二集、大月書店、一九七二年六月

戦線統一・生活闘争と総評労働運動——総評大会と日経連の共同歩調よびかけをめぐる 「賃金と社会保障」第六

〇九号、一九七二年九月

民主主義教育に期待するもの——ラディカリズムの問題とかかわって—— 「民主主義教育」全国民主主義教育研究

会、一九七二年一〇月号

ハイヤー・タクシー・観光バス運転手の労働移動 「資料室報」第一八七号、一九七二年一〇月

〈翻訳〉一九二〇年二月三〜八日アムステルダム開催の第三インタナショナル協議会（議事録） 「資料室報」第一

八七号、一九七二年一〇月

最近のイギリス労働運動 春闘民間共闘幹部講座 「月刊総評」第一八五号、一九七二年一二月号

\*一九七三年

労働戦線再編運動の現段階とその展望 「労働法律旬報」第八二五号、一九七三年一月

ゲ・エム・アデイベコフ著、梅田美代子訳『プロフィンテルン小史』国民文庫への「解説」 大月書店、一九七三年

三月

春闘講座・七三年春闘と労働戦線統一問題 練馬区労働組合議会編「学習テキスト七三年春闘講座講議メモ」一九七

三年四月

協会派の反共性への「弁明」——『労働組合と政治闘争』について 「労働農民運動」第八七号、一九七三年五月号

労働組合運動と組織について 「第一回中央労働学校講義要綱」全日本自由労働組合、一九七三年五月

労働者階級とはなにか 「学習の友」一九七三年五月号

現代の政治革新と労働運動——三野党連合政権構想と労働運動の課題 「賃金と社会保障」第六三八号、一九七三年

一二月



デグラスのコミンテルン資料集とその邦訳について 「歴史学研究」第四〇二号、一九七三年一月号

読書案内・国際労働者階級の運動の発展に確信——『コミンテルンの歴史』『プロフィンテルン小史』 「労働農民運

動」第九五号、一九七三年一月号

革新統一戦線と労働組合の役割 『現代の労働組合運動』第四集、大月書店、一九七三年六月

講座・労働組合入門① 労働組合への団結 「労働法律旬報」第八三五号、一九七三年六月

講座・労働組合入門② 団結の経済的基礎 「労働法律旬報」第八三七号、一九七三年七月

講座・労働組合入門③ 労働者の団結権 「労働法律旬報」第八三九号、一九七三年八月

講座・労働組合入門④ 不団結と分裂の要因 「労働法律旬報」第八四一号、一九七三年九月

講座・労働組合入門⑤ 労働組合の組織形態 「労働法律旬報」第八四四・八四五号、一九七三年十一月

講座・労働組合入門⑥ 国際労働組合組織とわが国労働組合運動 「労働法律旬報」第八四六号、一九七三年十二月

Japanese Trade Union Upsurge, Labour Monthly, August 1973.

さまざまな反共主義・労資協調主義との闘争 「労働農民運動」第九二号、一九七三年一月号

セミナー これからの労働運動③ 先進資本主義諸国における労働運動 「月刊労農のなかま」全国農業協同組合運

動組合連合会、一九七三年一月号

現代イギリス労働組合運動の新しい傾向とジャック・ジョーンズ 「資料室報」第一九八号、一九七三年一月

〈翻訳〉ジャック・ジョーンズ「七〇年代の労働組合運動」 「資料室報」第一九八号、一九七三年一月

〈翻訳〉ジャック・ジョーンズ「民主主義は成長する組合の活力」 「資料室報」第一九八号、一九七三年一月

\*一九七四年

- 講座・労働組合入門⑦ 政治闘争と経済闘争の結合 「労働法律旬報」第八四八号、一九七四年一月
- 講座・労働組合入門⑧ 政党と労働組合 「労働法律旬報」第八四九号、一九七四年一月
- 〈座談会〉戦後の大原社会問題研究所と労働年鑑（田沼肇、二村一夫、舟橋尚道らと） 『資料室報』第二〇〇号、一九七四年一月
- 社会主義協会「向坂派」の「統一戦線」論を批判する 「労働農民運動」第九七月、一九七四年二月号
- 講座・労働組合入門⑨ 労働組合とストライキ闘争 「労働法律旬報」第八五三号、一九七四年三月
- 〈翻訳〉わが組合の活動——運輸一般労組の活動内容と活動方法 「建設一般 資料」建設・資材・一般労働組合協議会、第一号、一九七四年七月
- メーデーの歴史に学ぶ——第四五回メーデーをむかえて 「学習の友」一九七四年五月号
- 「テニス馬鹿」復帰の弁 「法政」第二四五号、一九七四年七月号
- 政治革新のための統一戦線と労働組合における「政党支持」問題 「労働法律旬報」第八六五号、一九七四年九月
- グラフ学習・世界と日本の労働者と労働組合の現状 「学習の友」別冊「労働組合の基礎知識」一九七四年一〇月
- 労働組合運動と統一戦線 「高教組時報」日本高等学校教職員組合、第一九号、一九七四年一月
- イギリス運輸一般労働組合の教訓と建設一般の課題 「建設一般 資料」、第四号、一九七四年一月
- 労働戦線「再編・統一」運動の歴史的考察 「労働運動史研究」第五七号、一九七四年一月

労働組合と政党 みんなの労働組合教室② 「労働農民運動」第一〇八号、一九七四年一二月号

\*一九七五年

労働者階級とはなにか 『働くものの学習基礎講座』付録、学習の友社、一九七五年

ずいひつ・「自覚ある労働者とは」 『働くものの学習基礎講座』付録、学習の友社、一九七五年

第二半インタナショナルの「政綱」と「決議」 「資料室報」第二一一号、一九七五年二月

合評座談会・「風雪のあゆみ」(第二部) を読んで 「前衛」第三八〇号、一九七五年三月号

第二半インタナショナルの指導理論とその組織成立の過程 「社会労働研究」第二一卷三・四号、一九七五年三月

堀江正規さんの死を悼む 「賃金と社会保障」第六七四号、一九七五年五月

問答 まなぶ・ともこの労働組合とは 「学習の友」一九七五年七月号

だれにでもわかる労働組合のはなし 「赤旗日曜版」一九七五年七月六日～十一月一六日連載二〇回

内外の労働運動の経験と統一戦線 「建設」東京土建一般労働組合、第四号、一九七五年九月

平和と民主主義をめざす世界の労働運動 「婦人通信」一九七五年一〇月号

日本科学者会議編『講座』現代人の科学——危機にたつ戦後世界』第七巻、「先進資本主義諸国の労働運動と階級闘

争」、大月書店、一九七五年一二月

春闘・労働運動の前進のために 「賃金と社会保障」第六八七号、一九七五年一二月

\*一九七六年

「危機における労働運動——その前進と後退」を特集するにあたって 「労働運動史研究」第五八号、一九七六年一月

スト権闘争勝利の展望と統一戦線 「学習の友」一九七六年二月号

〈シンポジウム〉経済危機のもとでの労働組合運動（戸木田嘉久、高木督夫と） 「労働運動」第一二二号、一九七六年二月号

私の発言 「労働運動」第一二三号、一九七六年三月号

第二インタナショナルの再建と三つのインタナショナルのベルリン協議会 「社会労働研究」第二二卷三・四号、一九七六年三月

日本の大学・イギリスの大学 ハリソン教授に聞く（ロイドン・ハリソン、二村一夫、岡本秀昭との座談） 「法政」第二六〇号、一九七六年二・三月合併号

コミンテルン史研究の現況と「歴史の偽造」立花隆氏への反論 「朝日ジャーナル」一九七六年三月一九日号  
書評『報知闘争の記録』 「労働法律旬報」第九〇一号、一九七六年四月

労働・社会主義インターナショナル規約 「資料室報」第二三四号、一九七六年五月

統一戦線運動の国際的経験と労働組合の闘争——「連敗春闘」の総括によせて 「労働運動」第一二九号、一九七六年九月号

記念講演・革新統一戦線とはたらく婦人の役割 第二一回はたらく婦人の中央集会（記録）実行委員会「はたらく婦

人は前進する」一九七六年九月

労働運動の質的転換のための条件——今日における地域共闘の階級的意義 「賃金と社会保障」第七一一号、一九七六年一〇月

労働組合と政党との正しい関係——ヨーロッパの労働運動の経験から学ぶ 「労働運動」第一三一号、一九七六年一月号

アムステルダム——抵抗戦士の碑をめぐって 「法政」第二六八号、一九七六年一二月号

\*一九七七年

VILEM KAHANの研究によるコミンテルン最高諸機関の構成員 「資料室報」第二三二号、一九七七年二月  
多読して基礎学力を養おう 「法政」第二七一号、一九七七年四月号

青年が胸にひそめている鋭い社会批判——新入組合員を迎えた組合活動家諸君に 「労働運動」第一三七号、一九七七年五月号

メーデーの歴史——第四八回メーデーを迎えて—— 「月刊全自連」全国自動車運輸労働組合、第一五〇号、一九七七年五月号

『勤労者通信大学 特別コース 労働組合運動』第一課 勤労者通信大学、一九七七年六月  
文化・図書すいせん 谷川巖『日本労働運動史』 「学習の友」一九七七年七月号

「連合時代」と総評運動——「連合時代」に対応する大胆な政治運動の展開——は可能か 「労働法律旬報」第九三

四・九三五号、一九七七年九月

転機にたつ労働組合運動と統一戦線（パンフレット）東京学習会議、一九七七年一月

世界労連開催の一九五三年の国際社会保険会議に関する資料 「資料室報」第二三九号、一九七七年一月

新刊紹介 松尾章一著『日本ファシズム史論』 「法政」第二七八号、一九七七年一月号

労働運動の転換と前進課題——政治革新につながる諸努力 「賃金と社会保障」第七三六号、一九七七年一月

\*一九七八年

シャトー・ド・フォンテーヌブローの庭（写真と文） 「法政」第二七九号、一九七八年一月号

一九四五～五〇年の時期における金属労働運動のあらましと若干の問題点 総評全国金属労働組合編『全国金属の歴史をかえりみて』全国金属労働組合、一九七八年五月

新しい組織形態——「一般労働組合」の意義——その現実的基礎と必然性について 「労働法律旬報」第二四六号、一九七八年七月

アレン・ハット「イギリス労働組合運動小史」第六版の増補部分について 「資料室報」第二四六号、一九七八年七月

第一課学習の重点 勤労者通信大学「月報」第一号、一九七八年七月一日

記念講演・新しい組織形態としての「建設一般」の意義 「建設一般」建設・資材・一般労働組合協議会、第二〇号、一九七八年一月

一九七八年一月

コミンテルン史研究の現況と「歴史の偽造」——立花隆氏への反論—— 『特高史観と歴史の偽造 立花隆「日本共

産党の研究」批判』日本共産党中央委員会出版局、一九七八年一〇月

組織方針からみた七九春闘への提言 「賃金と社会保障」第七六〇号、一九七八年一二月

組織論的視点の再検討と地域共闘問題 「労働運動」第一五六号、一九七八年一二月号

\*一九七九年

特集 第三回中央幹部学校 七九春闘の諸課題 「季刊 学習」全日本自由労働組合、第一一号、一九七九年三月

国際労働運動史 『大月経済学辞典』大月書店、一九七九年四月

プロフィール 『大月経済学辞典』大月書店、一九七九年四月

労働運動史(各国の)2 イギリス 『大月経済学辞典』大月書店、一九七九年四月

労働運動史(各国の)4 ドイツ 『大月経済学辞典』大月書店、一九七九年四月

労働運動史(各国の)6 フランス 『大月経済学辞典』大月書店、一九七九年四月

労働運動の前進・後退をめぐるイギリス左派内の論争 「資料室報」第二五六号、一九七九年六月

〈シンポジウム〉地域別、産業別共闘をめぐる(基調報告) 「労働運動」第一六二号、一九七九年六月号

戦後労働組合運動の到達点と教訓 「労働者教育協会会報」、第二三三号、一九七九年八月

労働組合の「原点」に立ち返り 「賃金と社会保障」第七八三号、一九七九年一二月号

新たな労資協調体制と労働戦線統一の問題 「学習の友」一九七九年一二月号

\*一九八〇年

〈座談会〉いまなぜ統一労組懇の運動強化が重要か（引間博愛、中西五洲と） 「労働運動」第一七〇号、一九八〇

年二月号

イギリス通信① 五・一四全国統一闘争デーへむけ闘いを強める労働組合 「損保調査時報」全日本損害保険労働組

合、第一〇三号、一九八〇年三月

イギリス通信② 五月一四日・TUCの統一行動日 「損保調査時報」第一〇五号、一九八〇年五月

イギリス通信③ イギリスの銀行・保険業と労働組合 「損保調査時報」第一〇六号、一九八〇年六月

イギリス通信④ イギリスの労働組合の組織の特徴 「損保調査時報」第一〇七号、一九八〇年七月

イギリス通信⑤ イギリス労働組合の職場組織 「損保調査時報」第一〇八号、一九八〇年八月

イギリス通信⑥ TUC第一一二回大会 「損保調査時報」第一〇九号、一九八〇年九月

イギリス通信⑦ 現代イギリスの失業問題 「損保調査時報」第一一〇号、一九八〇年十一月

イギリス通信⑧ イギリスの労働組合と政党 「損保調査時報」第一一一号、一九八〇年十二月

イギリスでも進む組合の企業内化政策 「労働運動」第一七五号、一九八〇年七月号

旅について くるみ会誌「塑像」戦後復刊初号、通算第五号、一九八〇年十一月

新たな胎動示すイギリス労働者——経済危機と労働運動 「賃金と社会保障」第八〇八号、一九八〇年十二月



\*一九八一年

- イギリス通信⑨ イギリス労働運動と「民主的対案」 「損保調査時報」第一二二号、一九八一年一月
- イギリス通信⑩ イギリス労働運動とトニー・ベン 「損保調査時報」第一一三号、一九八一年一月
- イギリス通信⑪ マス・メディアと労働運動 「損保調査時報」第一一四号、一九八一年三月
- イギリス通信⑫ 炭鉱労組とサッチャー内閣のUターン 「損保調査時報」第一一五号、一九八一年四月
- イギリス通信⑬ イギリスと日本と 「損保調査時報」第一一六号、一九八一年五月
- イギリス通信⑭ イギリスの労働組合運動から学ぶもの 「損保調査時報」第一一八号、一九八一年六月
- イギリス通信⑮ フランス、イギリスの政権構想と日本 「損保調査時報」第一一九号、一九八一年七月
- イギリス通信⑯ サッチャー政権と拡大する暴動 「損保調査時報」第一二〇号、一九八一年八月
- イギリス通信⑰ イングリッシュ・ジョークと労働運動 「損保調査時報」第一二一号、一九八一年九月
- イギリス通信⑱(最終回) イギリス労働運動の原点 「損保調査時報」第一二二号、一九八一年一〇月
- 塩田庄兵衛編『改訂労働問題講義』、「労働問題の成立と展開」、青林書院新社、一九八一年三月
- サッチャーの「屈辱的な譲歩」と労働者の戦闘化 「学習の友」一九八一年五月号
- 深化するイギリス政治・経済の危機 「経済」一九八一年八月号
- イギリスの失業と暴動 「婦人通信」第二六〇号、一九八一年九月号

\*一九八二年

イギリス労働運動の新たな画期——その背景と運動の諸相「社会労働研究」第二八卷三・四号、一九八二年三月

イギリスの情勢推移に学ぶ(上) 「月刊TGU」全日本運輸一般労働組合、第二〇九号、一九八二年四月号

イギリスの情勢推移に学ぶ(下) 「月刊TGU」第二一〇号、一九八二年五月号

リレー時評・あいつぐ災害と労働組合 「日高教情報」日本高等学校教職員組合、第八八六号、一九八二年五月一日

リレー時評・国鉄赤字の責任は 「日高教情報」第八八九号、一九八二年六月一日

イギリス労働組合運動における職場組織と職場委員 「研究資料月報」第二八八号、一九八二年八月

現代労働組合組織論① 現代日本労働組合運動と職種別・職業別団結 「賃金と社会保障」第八四九号、一九八二年

九号

リレー時評・組合民主主義こそ団結の前提 「日高教情報」第八九二号、一九八二年七月二一日

リレー時評・正念場迎える労働戦線統一問題 「日高教情報」第八九五号、一九八二年九月一日

イギリスにおける社会民主党結成と労働党 「研究資料月報」第二八八号、一九八二年八月

リレー時評・人勧凍結とTUCの闘争 「日高教情報」第八九八号、一九八二年一〇月一日

\*一九八三年

書評の世界・待望の社会・労働運動史書の登場——塩田庄兵衛『日本社会運動史』 「労働法律旬報」第一〇六三・

一〇六四号、一九八三年一月

日本の労働組合運動の将来について 岩波書店編集部編『これからどうなる——日本・世界・二一世紀』岩波書店、

一九八三年五月

イギリスの労働者と生活 日本女子大社会福祉学科卒業生の会「みどり会ニュース」第三九号、一九八三年七月二〇日

\*一九八四年

イギリス運輸一般規約から学ぶ 「月刊TGU」第二三〇号、一九八四年一月号

階級的労働運動を主敵とする運動史——「労働運動の理念」批判 「労働運動」第二二二号、一九八四年五月臨時増刊号

イギリスにおける失業とそれをもたらした諸要因 舟橋尚道編著『現代の経済構造と労使関係』総合労働研究所、一九八四年五月

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割① 労働運動は酒場からはじまった 「労働運動」第二八八号、一九八四年一月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割② 労働運動の発展には科学的社会主義の理論が必要 「労働運動」第二二九号、一九八四年一二月号

\*一九八五年

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割③ 組合運動内における諸潮流と自覚的活動家の任務 「労働運動」第二三〇号

一号、一九八五年二月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割④ 国際労働運動がしめす政党と労働組合の関係① 「労働運動」第二三二号、一九八五年三月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割⑤ 国際労働運動がしめす政党と労働組合の関係② 「労働運動」第二三三号、一九八五年四月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割⑥ 国際労働運動がしめす政党と労働組合の関係③ 「労働運動」第二三四号、一九八五年五月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割⑦ 労働組合の組織形態「労働運動」第二三五号、一九八五年六月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割⑧ 団結権・争議権獲得の歴史は何を教えるか「労働運動」第二三六号、一九八五年七月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割⑨ ストライキ闘争と労働組合 「労働運動」第二三七号、一九八五年八月号

〈青年講座〉労働組合 その歴史と役割⑩ 政治闘争と経済闘争の結合 「労働運動」第二四〇号、一九八五年一月号

メーカー——そのたたかひの歴史 学習の友編集部編『メーカーの歴史に学ぶ』学習の友社、一九八五年三月

堀江正規さん——その人と仕事 「あれから一〇年、堀江正規さんをしのぶ」堀江正規さんをしのぶ会、一九八五年八月

『国際労働運動史』の出版によせて 「『国際労働運動史』読書ノート」協同産業(株)出版部、一九八五年九月

〔作成責任者＝浅見 和彦〕

\* 先生が筆名や無署名で書かれたものや執筆分担不明のものは収録されていません。このリストに載っていないもの（筆名や無署名で書かれたものを含めて）をご存知の方、また誤りにお気づきの方は左記あてご連絡いただきたいと思います。

〒一七四 東京都板橋区前野町一―二〇―一―七二五 浅見 和彦